View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

Y3-20

東日本大震災での救護
－カルテ管理方法統一の必要性－

神戸赤十字病院　放射線科部
○小川（おがわ）　宗久（むねひさ）、松井　　隆、並木　雅行、
田原奈津子、水沼　謙一、松本ゆかり、
末吉　弥生、西村　尚美、浅田美奈子、
村上　功一、國枝　正志、古岡　洋典

【はじめに】神戸赤十字病院救護班は兵庫県支部の一個班として他県支部と協同し岩手県釜石市での救護活動に従事した。活動記録は初動班主事が作成したエクセルシートに入力し、再診時のカルテ検索や傷病名別患者数管理などが容易に行えるシステムであった。しかし、派遣時のカルテ管理は、活動場所や担当班毎に整理されており統一されていなかった。また処方箋の運用方法も様々であった。今回、我々救護班は、これらの問題点を解消するために以下の患者情報管理に注目し、カルテ管理などの統一化を行い、後続救護班の活動がスムーズに行えたので報告する。

【活動背景】
期間：3月28日～4月1日
場所：救護所
運営：岩手県釜石市鈴子広場
巡回診療：岩手県釜石市大槌地域・小鎚地域

【患者情報管理方法】
・救護所カルテ管理：通し番号順に統一
・PC管理：患者情報・主傷病名・処方内容・担当班をエクセルに入力
・巡回診療カルテ管理：避難所ごとに通し番号管理
・処方箋運用：A5・3枚複写用紙を使用
・運用維持：マニュアルを作成し随時更新、後続救護班に配布

【まとめ】岩手県釜石市で5日間救護活動を行い、主に患者情報管理に携わった。複数班での共同活動では初動時に策定された運用を継続する事が難しい。そこで、乱雑されていた運用を統一し、マニュアル化する事で後続救護班に対し引き継ぎがスムーズに行われ、迅速に活動を開始できた。今後、カルテや処方箋の形式、PCでの患者情報管理フォーマットが日赤で統一されていれば、慢性期の活動場所統合時にも柔軟に対応でき且つ、全体の総括も容易になると考えられる。

Y3-21

大規模災害時におけるロジスティックスの役割

熊本赤十字病院　事務部
○河野（かわの）　龍一（りゅういち）、須本大二郎、大石　耕平

東日本大震災における当院の救護活動は、緊急対応と自己完結を目標に活動を行ったが、大規模災害であり且つ被災地域（活動地域）が遠方であるという特殊な条件下における活動となった。このような条件下においては、特に自己完結型の救護を行うためにロジスティックスが重要な役割を担うこととなった。

当院の救護活動におけるロジスティックスは概ね、①病院本部における現地要望の把握と物資の確保、②遠方である被災地までの物資輸送と行程管理、③被災地における物資の受入・整備・備蓄、④情報管理によって構成され、今回の救護活動においては緊急対応ユニット（EmergencyResponseUnit）をはじめ医薬品や生活用品等を15t車1台、10t車5台、6t車2台、4t車6台と延べ70t以上の物資を被災地に輸送、また現地管理・整備を行う専門班としてブルーガイズを派遣した。

また、2か月以上にわたる長期の活動を維持していくうえで、救護員の衣食住の確保も大きな課題であり、特にテントによる現地活動の維持は寒冷地であることや強い風などの気候的影響により非常に困難なものとなったため、新たな試みとして簡易組み立て型居住スペースを現地に設置し、活動維持に大きな成果を得ることができた。

そこで今回、これまでに類を見ない規模のロジスティックスを経験した当院の活動や現状のシステムでは対応できなかった課題について検証し、今後のロジスティックスの役割についてその展望を提言する。